

学校教育目標	主体的に学び、協働して高め合う子どもの育成
育成を目指す資質・能力	主体的に学び合い、深い学びを生み出す子どもの育成

	学力状況について	学習状況について
児童生徒の課題	各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 ・問題として問われていることを根拠を明確にしなが、条件に応じて書くことができていない ・国語で学んだ「書く」力が、他教科・他領域において汎用的に活かされていない ・問題解決の考え方を図に照らし合わせて説明を書いたり、読み取ったりする力が十分ではない	各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 ・学習意欲が高く、基礎的・基本的な学力が定着しているが個人差が大きい ・自分の考えを友だちと交流することができるが、全体で発言する児童が固定化している ・自由に自分の考えを色々な表現方法で書くことができるが、目的や条件に応じて書くことが苦手 ・指示されたことは努力するが、諦めも早く主体性に欠ける
	これまでの学力向上の取組に対する児童生徒の状況(授業及び授業以外の側面から) ・問題として問われていることを根拠を明確にしなが、条件に応じて書くことができていない ・授業における振り返り場面において、テーマ(目的)を設定し記述させる活動の充実 ・友だちの考えを自分の言葉で表現したり、その表現に対して付け加えたりする授業における説明活動の実施	
指導の状況	1 組織的な授業改善の取組状況 ・学年ごとに算数科を中心とした単元ごとの授業計画(教材研究)を実施 ・金池板書を基本とした授業ノートづくり(個人)を実施 ・校内の授業を見る視点を3つ設定し、その設定に基づく授業実践と校内研の実施 2 その他の学力向上に向けた指導の取組状況 ・中学年児童を対象として週4回のラーニングタイム(短時間の補充学習)実施し、個別の学習支援 ・「書く」活動を意識化し、週末等のテーマ作文の取組・指導 ・算数科を中心に単元ごとに習熟の時間を設定し、児童の学習内容の定着を図る	

学力に関する達成指標

国語・算数・理科・社会における「思考力・判断力・表現力」75点以上の児童を85%にする

今後の具体的な取組	【授業改善】	【家庭・地域との協働】
	〈授業改善のテーマ・重点〉 「主体的・対話的・深い学び」が生まれる授業づくり	
	〈取組内容〉 主体的な学びを促し、深い学びを実現する授業作り(授業実践の柱) 1) 自分の考えを明確にし、目的や条件に応じて書く指導の強化 2) 対話の目的を明確にし、説明活動を取り入れた主体的な学びの実現 3) つけたい力を意識して「課題」「深める問い」を位置づけた子どもの思考を深める授業づくり	〈家庭・地域の取組内容〉 ・校長だより・学年通信・家庭学習の手引きを基に、家庭学習の意義・方法を確かめ取り組ませる
	〈取組指標〉 1) 週1~2回の朝の金池タイムにて(書く・描く)指導を行う 学期に1度児童のノートを持ち寄り、児童の書く内容の実態把握と指導の共通理解 2) 算数科を中心に授業における子ども同士の説明活動を取り入れた、対話的な授業を行う 3) 3つの視点に焦点化した年3回の授業研究(算数科2回・道徳科1回)と個人研(算数科・他教科)の実施と算数科を中心に「付けたい力」を明確にした教材研究の実施	〈家庭・地域の取組指標〉 ・家庭学習に取り組んでいるか毎日、声掛けや見守りをする ・校長だより・学年通信を必ず読む
	〈検証指標〉 1) 児童アンケートにより「課題に対して自分の考えをもち、その理由を書くことができた」と回答した児童を80%以上にする 2) 児童アンケートにより「友だちの考えをよく聞き、自分の言葉で説明したり、自分の考えをクラス全体や近くの友だちと交流したりすることができた」と回答した児童を80%以上にする 3) 教職員アンケートにおいて「金池板書を徹底し、教科の見方・考え方を働かせる「深める問い」と「深い学びの姿」を意識した授業展開を構想した」3.5以上	〈家庭・地域の検証指標〉 ・学校評価アンケート(家庭)において「お子さんは、進んで家庭学習に取り組んでいる」3・4評価 80%以上
【授業改善以外の学力向上の取組】 ①学校・学級による個別の学習支援の充実(ラーニングタイムの実施・簡易的な習熟度別学習等の導入を含めた単元ごとの習熟の時間の設定) ②思考力・判断力・表現力を育む学習指導・授業実践(金池タイムによる「書く・描く」指導の強化・単元構成の中での指導の重点化を図る教材研究の実施)		